



栃木労働局（川口秀人局長）は2日、今春卒業した県内高校生の3月末時点の就職内定状況を発表した。内定率は前年同月を0.2%上回る99.5%で、高水準を維持した。求職者数は0.6%減の2787人、

3月末 高校生就職内定99.5%

県内企業に人手不足感

求人数は1.0%減の8532人で、求人倍率は0.01%減の3.06倍。同局は「県内企業の人手不足感が強く、高卒者への採用意欲が強い」と分析している。

高校生の内定率上昇の要因について、川口局長は「学校訪問など積極的な採用活動を行う企業が増えたため」と説明した。

高卒求人数を事業所の規模別で見ると、千人以上が12.9%増で最も大きく伸びた。次いで300～499人規模が4.8%増、500～999人規模が3.4%増となった。一方、1

00～299人規模は5.6%減、29人以下は2.6%減だった。

産業別で最も求人数の伸び率が大きかったのは生活関連サービス業・娯楽業の22.4%増。宿泊施設や温泉、関連に複数工場を持つ洗濯業の求人が大幅に増えたためという。

最も大きなマイナスとなったのは運輸業・郵便業の25.3%減。前年には大規模な募集があったため、減少幅が大きくなった。不動産・物品賃貸業も25.2%減となった。大卒の内定率は0.3%減の97.3%、短大卒は1.1%増の96.3%だった。いずれもほぼ例年通りの高い水準で、若手の人手不足が反映されたと（稲葉雄大）



261

小学校中学年～高学年向け

年組

設問

【1】この記事の中の言葉について調べてまとめました。（ア）～（エ）に当てはまる言葉を下から選びましょう。

- ・「就職内定」とは、仕事を探す人が、その（ア）で働くことが正式に決まること。
- ・「求職」とは、（イ）を探すこと。「求職者数」とは、その人数。
- ・「求人」とは、（ウ）を探すこと。「求人数」とは、その人数。
- ・「求人倍率」とは、求職者数と求人数から、求職者1人当たりの求人数。1より大きければ、（エ）数の方が多い。《求人、仕事、働く人、企業》

【2】「県内新規学卒者の就職内定率」のグラフを見て、次のようにまとめました。正しいものを全て選び答えましょう。

- 1 最も就職内定率が高いのは、高校である。
- 2 短大より大学の方が低い年もあった。
- 3 高校、短大、大学ともに過去最高の年は2024年である。

【3】記事から「事業所の規模別の高校求人数の前の年との比較」を次のようにまとめました。（ ）に当てはまる数字を記事から選び記号で答えましょう。

事業所の規模 (働く人の人数)	求人数の 前年との比較
千人以上	12.9%増
500～999人	(1)%増
300～499人	(2)%増
200～299人	(3)%減
29人以下	2.6%減

【4】都道府県別の高校生の就職内定率の様子について、厚生労働省のホームページで調べられます。他の都道府県の様子を調

べて栃木県と比べてみましょう。

【5】皆さんは、将来どんな職業に就きたいですか。家族や友達と紹介し合いましょう。